



Suzuka University
of Medical Science

鈴鹿医療科学大学
〒510-0293 鈴鹿市岸岡町1001番地 1
TEL. 059-383-8991
<https://www.suzuka-u.ac.jp/>

No.
124

2023.10.20

SUMS News



「白子キャンパスにて
初開催！」

「第33回 碧鈴祭」を開催します！

大学祭実行委員会

今年の第33回碧鈴祭（大学祭）は、11月11日（土）・12日（日）の2日間に渡り、自然豊かで秋の風が心地よい『白子キャンパス』で開催します。

テーマの『笑真懸命！ ～躍 Best Performance～』は、「正真正銘」と「一生懸命」に「笑い」を組み合わせた、私たちオリジナルの四字熟語です。

医療人を志す私たちが取り組む大学祭だからこそ、正真正銘「嘘偽りのない」まっすぐな想いと、高い熱量で「一生懸命」打ち込み、私たちらしい大学祭を作っていきたいと考え、このテーマに辿り着きました。

碧鈴祭の準備や実施・運営を通して日々の学びをより深め、さらに、仲間とともに一つのことを作り上げる喜びを味わいたい。一人ひとりが主役となり、活躍・飛躍し思い描いたベストパフォーマンスへとつながるよう努力することが、経験や自信となり、これからの学業や学生生活の大きな糧になってくれると思います。

加えて「笑」、楽しむ気持ちもテーマに込めて。まず、作り上げる私たちが全力で楽しむこと。

当日は、来場されたお客様・教職員と一緒に、立場や関係・世代を越えて、思いっきり楽しみ・学ぶ喜びを分かち合い・交流する。会場中が「笑顔」と「笑い声」で溢れる、記憶に残る2日間になりますように！そんな願いを抱きながら、日々準備に励んでいます。

当日は、本学学生・教職員の他、高校生や地域の皆様をはじめとした学外の方にも本学の教育・研究の内容を知っていただけるような多彩なプログラムをご用意していますので、ご家族・ご友人等お誘い合わせのうえ是非ご来場ください。

◇ 碧鈴祭

<開催日時> 令和5年11月11日（土）10：00～17：00 / 11月12日（日）10：00～16：00

<開催場所> 本学白子キャンパス

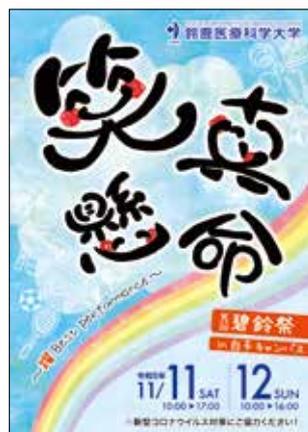
<イベント内容>

- ・11日 【屋外ステージ】 サラナ保育園児による「和太鼓演奏」・パクユナLIVE
【講堂】 ゲストLIVE（出演：moon drop / 入場無料・要整理券）
- ・12日 【講堂】 お笑いLIVE（出演：永野・東京ホテイソン / 入場無料・要整理券）
キャラクターショー
- ・両日 学科発表 / クラブサークル発表

※開催方法及び、実施内容・スケジュール等が変更になる場合がありますので、予めご了承ください。

※キャンパス内及び会場周辺での徹夜等、周辺施設や住民の方の迷惑となる行為は、固くお断りします。

<学生課>



臨床工学科の2名が「第1種ME技術実力検定試験」に合格！

医用工学部 臨床工学科 准教授 中村 太郎

6月25日(日)に実施された第28回第1種ME技術実力検定試験に、臨床工学科3年生の中山大輝さんと前川柊翔さんの2名が合格しました。

第1種ME技術実力検定試験は、医療機器や院内設備の専門的な知識と技術について問われる問題が出題され、他の医療従事者に対し、教育・指導ができる資質を検定する試験です。

第1種ME技術実力検定試験の合格率は、30%程度と難易度が高いですが、二人とも通常授業のある中で試験勉強を行い、見事合格することができました。本当におめでとうございます。

■臨床工学科3年 中山 大輝さん

今年の4月から第1種ME技術実力検定試験の勉強を開始しましたが、すでに前期の授業も始まっており、毎日の授業と並行して試験勉強を進めることに不安を感じていました。しかし、日々勉強を続けることで理解が深まり、試験合格の手応えを感じ始めてからは、不安を感じることはなくなりました。

試験勉強は、過去問の解説ができるぐらいにテキストを読み込み、また、友人に問題を出し、その問題の解説をすることで知識を定着させていきました。友人と一緒に勉強をすることが、今回の検定試験の合格という良い結果に結びついたと思います。

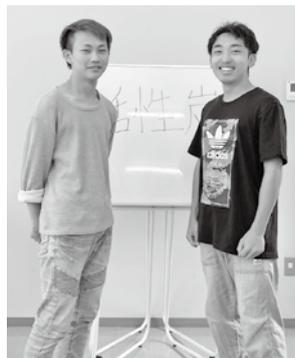
今後は、試験勉強で得た知識を学内実習、臨床実習で活かし、将来的には患者様に安全安心な医療を提供できる臨床工学技士を目指したいと考えています。

■臨床工学科3年 前川 柊翔さん

昨年、第2種ME技術実力検定試験に合格したことをきっかけに、入学当初からの目標であった第1種ME技術実力検定試験の合格を本格的に目指すようになりました。

試験勉強は今年の2月から開始しました。ME1種の過去問はもとより、臨床工学技士の国家試験についても深く理解する必要があるため、一つ一つの分野について丁寧に理解することを心がけました。資格試験の勉強は長期に渡るため、モチベーションを維持することが非常に難しく、何度か挫折しそうになりましたが、適度な息抜きや気分転換を行うことで、勉強に対するモチベーションを維持し、試験に合格することができました。

私には、教員として大学に戻って来るとい目標があるので、今持っている知識以上のことを伝えられるよう、今後も勉学に励みたいと思います。



強化指定クラブ『女子バスケットボール部』が東海学生連盟4部リーグで準優勝！



今年度より本学で初めての強化指定クラブとして発足した『女子バスケットボール部』が、今夏開催の「第94回 東海学生バスケットボールリーグ戦・4部リーグ」において準優勝しました。

現在、次年度入学予定者の選手スカウト活動を行っておりますが、今年度のチームは在学生の中から加入を希望する7名(3年生4名/1年生3名)の選手で構成し、全8戦を戦いました。

リーグ戦途中に学外実習期間と重なったため少人数で挑む試合もありましたが、7勝1敗で準優勝することができました。

これによりチームは上部リーグに自動昇格し、次年度は新たな選手も迎えて3部リーグを戦います。

女子バスケットボール部の強化指定は東海地区の医療系大学で初、三重県の高等教育機関でも初めての取り組みになります。

強化指定クラブ『女子バスケットボール部』は上部リーグへの昇格を目標に取り組むことと同時に、本学在学生の皆さんからも愛されるチームを目指し頑張りますので、どうか多くの方の応援をよろしくお願いいたします。

※今回のリーグ戦では次の選手が個人賞を獲得されました。

敢闘賞 大崎 杏さん(看護学科3年) 優秀選手賞 清川 愛裕さん(看護学科1年)



＜強化指定クラブ『女子バスケットボール部』・学生課＞

受賞のご報告

日本理学療法士協会第41回協会賞を受賞

保健衛生学部 リハビリテーション学科 助教 伊藤 和寛

この度、浅田啓嗣教授が「公益社団法人日本理学療法士協会 協会賞」を受賞されました。この賞は、会員歴30年以上で日本理学療法士協会または都道府県理学療法士会の活動において献身的な活動を続け、功績が顕著で他の模範となる者を日本理学療法士協会会長が表彰するものです。

今回、受賞の決め手になった先生の主な活動は以下のとおりです。最初に所属されていた奈良県理学療法士会では、選挙管理委員長、資料部長、総務部長を歴任され、第39回日本理学療法士全国学術研修会準備委員（2002～2004）を務められました。本学に着任され三重県理学療法士会に異動された後は、第44回日本理学療法士協会全国学術研修大会準備委員（2007～2009）、第34回東海北陸理学療法学会学術大会準備委員（2016～2018）として活躍されました。日本理学療法士協会関連事業では、日本理学療法士学会徒手理学療法部門運営幹事（2015～2020）、第6回日本運動器理学療法学会学術大会副準備委員長（2016～2018）、日本理学療法学会ガイドライン作成委員（2017～2022）、第7回日本運動器理学療法学会学術大会準備委員（2017～2019）、日本理学療法士学会研究安全・学術倫理委員会審査員（2019～2020）、日本運動器理学療法学会運営幹事（2019～2020）、第9回日本運動器理学療法学会学術大会準備委員（2019～2021）など多くの学術活動に貢献されました。

さらに、浅田教授は2021年より日本理学療法学会連合日本筋骨格系徒手理学療法研究会理事長として国民の健康に寄与するべく学会運営のかじ取りを担っておられます。

浅田教授のこれまでの活動が評価され学科教員一同嬉しく思いますとともに、益々のご活躍を祈念しております。誠におめでとうございます。



<理学療法学専攻>

国際学術集会でThe Best Presentationを受賞

看護学部長 倉田 節子

看護学部看護学科成人看護学の井上佳代准教授が8月2日(水)～4日(金)にインドネシアで開催された「6th AONS (Asian Oncology Nursing Society) Conference 2023 in Bali, Indonesia」にて、ポスター発表「Complementary Therapy as Self-Care Management for Cancer Survivors」を行い、The Best Presentationを受賞しました。AONSはアジア諸国（中国、韓国、台湾、タイ、フィリピン、インド、インドネシア、シンガポール、香港、日本）のがん看護に、教育的、科学的な点から貢献することを使命として活動している学会で、2年に1回Conferenceが開催されています。



発表は、本学大西和子客員教授が科学研究費の助成を受けた共同研究の一部として、がんサバイバーを対象にCT (Complementary Therapy) を用いた介入研究の結果を報告しました。がん患者は、がんによる症状や治療による副作用が出現するなか、治療が終わった後も、再発の不安や治療の副作用とともに生きていきます。今回、報告された介入研究は、がんサバイバーが自分自身で体調を整え、ケアしていくためにCT実践し、少しでもQOLの高い生活を送るための一助となることが示され、その成果が高く評価されました。この受賞を励みにがん看護に貢献できる研究を続けられ、井上准教授の今後の研究がさらに発展されることを期待し、看護学科教員一同お祝い申し上げます。

皇學館高等学校と高大連携協定を締結

8月29日(火)本学と皇學館高等学校は、高大連携に関する協定の調印式を行い、本学の豊田長康学長と皇學館高等学校の芝崎俊也校長が高大連携協定を締結しました。

両校はこれまでも、全生徒向けの進路説明会に大学教員が参加したり、医療分野に興味のある生徒へ特別授業を実施するなど交流があります。今回の協定によりさらに連携を深め、今後、コミュニケーションの機会をさらに増やすことで、医療系職種や大学の姿を時間をかけて理解してもらい、地域に貢献できる人材の養成につなげていきます。



<入学課>

鈴鹿市アルツハイマーデーに参加して

保健衛生学部 医療福祉学科長 藤原 芳朗

9月17日(日)イスのサンケイホール鈴鹿で開催されたイベントに学生と共に参加しました。この取り組みは鈴鹿市健康福祉部が中心となり、社会福祉協議会、認知症連絡会等の共催で行われました。医療福祉学専攻の1年生15人、2年生3人の18名が3グループに分かれ、認知症カフェ、むかし遊び、ワークショップの3コーナーで認知症の方や家族と交流をし、後半は認知症の研究者や専門医の講演を聞き高齢者ケアの学習をさせてもらいました。

むかし遊びのコーナーでは独楽、おはじき、お手玉やメンコが用意され、昭和初期からの生活雑貨や民具などの展示を通して高齢者の方々から解説を受けるなどして楽しく交流ができました。認知症カフェでは絵本の読み聞かせや回想法などの取り組みを専門職の方から具に見せてもらい、来年度以降の社会福祉士の実習に役立つものとなりました。ワークショップでは高齢者の方々と一緒にフェルトや紙で独楽や小動物などを協力して作っている姿が印象的でした。

学生の多くが都市化の進行とともに三世同居が減り、核家族の中で育ってきており、お盆や正月でしか自分の祖父母と関わることの無い学生にとって、炭火アイロン、手回し式の電話、行火の炬燵などを通して高齢者の生活歴に思いを馳せることや、認知症カフェでお茶を提供しながら介護の苦勞に耳を傾ける経験等は、今後役立つ貴重なものとなったと考えます。

<医療福祉学専攻>



鈴鹿市教育委員会との学官連携事業

医療科学研究科 臨床心理学分野 教授 渡部 千世子



本学は2018年に鈴鹿市教育委員会と協定を結び、臨床心理学専攻・大学院臨床心理学分野は以下のような連携事業を進めてきました。①鈴鹿市教育委員会推薦の小・中学校の教師を大学院に受け入れ、臨床心理士養成を行う、②本学臨床心理学専攻の学生、臨床心理学分野の大学院生の実習先として鈴鹿市内の小・中学校、適応指導教室の協力を得る、③鈴鹿市不登校ミーティングなどに本学教員がアドバイザーとして参加し鈴鹿市の教育に関する問題の改善に協力する、の3点です。鈴鹿市教育委員会推薦の教師はこの5年間で5名大学院を修了し、現在も3名が在籍しています。現役教師の院生の存在は、若い院生にとって現場の事情を知る上でとても良い刺激となり、逆に本学出身の大学院生は学部での学びを伝授するなど相互に良好な学び合いが行われています。また、大学に近い小・中学校に、学部生や大学院生が実習やボランティアとして伺うことは、地域の現場体験の貴重な機会になっています。さらに、このような事業を通して鈴鹿市教育委員会の職員と大学教員との関係も深まり、教育に関する問題の改善について相互に協力し合う基盤ができたように感じています。本学卒業生、修了生が鈴鹿市の教育に貢献できるよう、今後益々、連携を深めていきたいと考えています。

*この事業は学官連携のユニークな試みとして中部経済新聞の取材を受け、9月6日の新聞に掲載されました。

「救急・健康フェア2023」が開催されました

9月10日(日)白子キャンパスにて、「救急・健康フェア2023～『食』で元気に健康に～」が開催され、約400名の方が来場されました。

このイベントは、鈴鹿市・鈴鹿市消防本部主催、本学の共催により、市民の皆さまに救急と健康に関する理解と認識を深めていただくことを目的に開催され、学官連携の一環による本学での開催は5回目となりました。

会場では、オープニングイベント「三重ホンダヒートとタオルストレッチをしよう」や「お茶で加工した干物で健康をめざそう(本学臨床検査学科 棚橋伸行教授)」、「食と救急の深い関わりについて(鈴鹿市消防本部)」、「どうする便秘～便秘治療の新時代～(別府内科クリニック 別府徹也先生)」の講演会をはじめ、各ブースとも賑わいを見せていました。

本学からも2つのブースを設けて参加し、市民の皆さまに健康維持に役立つ情報をお伝えしました。

本学参加ブース

- 医療栄養学科「あなたの食事と身体を見直そう」
- 日本薬膳学会(鍼灸サイエンス学科)「体質チェックと薬膳茶」

<学生課>



第3回看護学部市民公開講座を開催

8月5日(土)白子キャンパスにて、第3回看護学部市民公開講座を開催しました。「人生会議をもっと身近にーもしバナゲームを使って考えてみよう!ー」と題し、看護学部成人看護学 辻川真弓教授と成人看護学教員5名によりワークショップ形式で実施しました。

「人生会議」とは、自分が望む人生の最終段階の医療・ケアについて家族や大切な人と前もって話し合っておくことです。今回の講座では、人生会議の説明の後、「もしバナゲーム」を用いて、4人一組で自分が人生の終わりにどう過ごしたいかを考える時間をつくりました。「もしバナゲーム」はトランプのようなカードで、人生の終わりに多くの人が重要と思うことが書かれています。参加者はゲームを通して、自分が大切にしたいと思うカードを選んでいきました。メンバーは初対面の人も多かったのですが、和やかに実施され、色々な価値観に触れ勉強になったという意見をいただきました。

参加者は44名であり、参加された皆さんからは、「人生会議という少し重い感じがしていたが、ゲームは楽しく自分の大切にしていることに気づくことが出来た」「自分が大切にすることを、家族に伝え話し合うことの大切さを感じた」「姉妹で参加したが、意外な姉の思いを知る機会になった」などの意見をいただきました。

私たち成人看護学教員も、皆さんから「楽しかった」「暑い日だったけど参加してよかった」と声をかけていただき、一緒に有意義な時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。 <看護学部>



学生参画型「教育改革委員会及びFD推進委員会」を開催

教務・教育改革担当副学長 片山 直之・FD推進委員長 田口 博明

2018年度から開催している学生参画型の「教育改革委員会及びFD推進委員会」を、8月3日(木)に開催しました。

学長をはじめ教育改善に関わる教職員で構成される両委員会に、教育改善委員として任命された学生13名が参画し、以下の議題について活発な意見が挙がり、具体的な教育改善に関する方策等について議論ができました。

1. 3つのポリシー等の教育目標から見て教育が適切に行われているかについて
2. 学生による授業評価をどのように教員の授業評価に結びつけるかについて
3. 遠隔授業 (Zoom) およびe-learning (learningBOXなど) について
4. 教育に関する改善点について

学生教育改善委員からの意見に対し、授業改善に組織的に取り組む必要性、SUMS-POやlearningBOX、Zoomによる学修支援の活用方法、授業評価の実施方法など、多岐にわたって意見交換し、重要な気づきにつながる委員会となりました。

今回の意見を参考に、カリキュラムの内容・学修方法・学修支援、そして学修成果に関する改善を検討することとし、今後も学生が主体的に改革・改善にかかわる仕組みを取り入れていきたいと思っています。今回参画していただいた学生教育改善委員の皆さんにとっても、この機会を今後に活かしてほしいと思います。



臨床検査学科・新カリキュラムが動き始めました

保健衛生学部 臨床検査学科長 米田 操

近年、医療技術の進歩に伴い、臨床検査学分野で国民に対するニーズが高まっています。医師の働き方改革によるタスクシフトシェアの業務拡大、在宅医療、救急医療、遺伝子検査等の新規検査項目が注目されています。厚生労働省は、これらの臨床検査を取り巻く変化により臨床検査技師の質向上を目的とし、2022年度入学生より新カリキュラムを導入して臨床検査技師等に関する法律施行令に定める科目を告示、改正しました。中でも学外臨床実習に関する科目においては、実習期間の延長、学生の実習前到達度評価の単位化が盛り込まれ大きな変革がありました。病院側においても日本臨床衛生検査技師会認定の臨床実習指導者を在籍させ効果を高めています。今後、本学科教員は、これまで以上に質の高い教育が求められています。新カリキュラムは、未来の臨床検査技師を見据え、高度な医療技術に対応できる新しい臨床検査技師を育成することになります。

トライアスロン大会での救護活動

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 助教 長岡 伸征・助手 松岡 慶弥



7月2日(日)に大矢浜海水浴場にて開催された伊勢志摩・里海トライアスロン大会で、鍼灸サイエンス学科の学生が救護活動を行いました。今大会は10回目の開催を迎え、今年は約800人が参加されました。本大会の総競技距離は57km(スイム2km、バイク45km、ラン10km)と過酷な競技内容に加え、この時期特有である高温多湿の環境下であることから、競技中の熱中症をはじめとする体調不良や接触事故等による傷害が多く発生するため、迅速な対応を求められる大会でもあります。

今回、本学科鍼灸・スポーツトレーナー学専攻の学生7名(2年生4名、3年生3名)、大学院生1名、および教職員2名(長岡、松岡)が本大会の救護班として参加し、救護テントにて医師、看護師、救急隊員の方々の対応補助や見学、コースを巡回しながら選手への傷害、熱中症等への対応を行いました。

救護活動に初めて参加した学生も、積極的に選手への声掛けなどを行いながら、とても真剣に取り組む姿勢がみられました。スポーツトレーナーを目指す学生にとって今回の様な活動は、とても重要な機会になると考えます。今後も本活動の様に学生が経験を通して学び、成長できる場を提供できるよう努めてまいります。

御所ラグビーフェスティバルでのトレーナーブースの運営

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 助教 瀧本 未来

奈良県御所市で開催された「御所ラグビーフェスティバル2023」にて、鍼灸サイエンス学科ブースを出展しました。学科教員9名と学生の33名が参加し、7月21日(金)~24日(月)までの4日間、運営を行いました。

本催しには、日本全国から40高校以上、台湾から2高校が参加し、1週間に渡って交流試合を行うイベントで、今夏で33年目を迎えました。このイベントにはラグビー関係者のみではなく、御所市役所・警察・消防・商工会青年部や約30社の企業も参加し、「町おこし」イベントとして地域一体で運営されています。



本学科が出展していた4日間で約1万5千人の来場者があり、マッサージブースでは4日間で約400人のスポーツマッサージ・鍼灸治療体験を行いました。スポーツトレーナーブースでは試合前のテーピングや試合中に負傷した選手の対応や救急搬送の手配などを行いました。

学生からは「フェスティバルではラグビー選手以外にも選手の保護者や近隣住民の方など、学内では交流の機会がない方とのコミュニケーションの場になり、普段の勉強がどのように臨床現場で活かされるのかを改めて考える機会になった」との声もありました。

令和5年薬学科学生・教員交流会を実施

薬学部 薬学科 教授 西田 圭吾・准教授 堤 智斉

9月7日(木)の午後に、令和5年度の薬学科学生・教員交流会が開催されました。学生主体で企画・運営される本交流会は、学生と教員のみならず先輩/後輩が交流できる良い機会となっています。本年度も恒例のバレーボール、バスケットボール、テニス、ソフトボールといった球技大会に加えて、ボードゲームなど屋内でも参加して楽しめるイベントも企画されました。球技大会では天候にも恵まれ参加した学生も教員もいい色に焼けており、学生と教員間でコミュニケーションの良い機会となりました。また、屋内の企画に参



学生・教員交流会恒例のソフトボール



学生・教員混合チームで編成されたクイズ大会

加した方々も普段とは違った距離感で交流が深められたかと思えます。交流会の後半には、大講義室のスペースを利用して、学生と教員がグループに分かれて、混合チーム対抗の大学のキャンパスや地域にまつわるクイズに挑戦しました。学生・教員交流会では、普段交流が少ない上級生や下級生と親睦を深めたり、科目担当以外の教員とコミュニケーションをとる場となり、今後の大学生活をより充実させていくための良い機会になったものと思われま

オープンキャンパスで体験コーナーを開催して

保健衛生学部 救急救命学科 准教授 坂口 英児

9月2日(土)に第5回オープンキャンパスが開催されました。以前までの救急救命学科では、救急救命士を目指している学生がどのような場所や資器材で学んでいくのか実習室や救急車を見学していただいていたのですが、オープンキャンパスに来られた高校生がもっと本学で学ぶ興味を持ってもらえるように、実際に体験できるコーナーを設置しました。

体験コーナーでは、救急救命士が処置をする際に使用する喉頭鏡やビデオ硬性喉頭鏡を準備し(図1)、来場者の皆さんに気管挿管を体験していただきました。体験コーナー以外にも教員や学生が、参加した高校生や保護者の方と直接コミュニケーションを図り、本学科での1年から4年までの授業カリキュラムや救急救命士の国家資格取得までの説明をするとともに、高校生や保護者の方の疑問に対して分かりやすくお答えしました。



(図1) ビデオ硬性喉頭鏡

質問で特に多かったのは、救急救命士資格を取得した後の主な就職先と公務員対策であり、教員が公務員や病院内で救急救命士資格が活かされることから就職先も同様であることと、公務員試験対策についても授業カリキュラムに配置しているため在学中から希望者は受講できることも説明すると皆さん安心した様子でした。

オープンキャンパスは本学の雰囲気や価値観を理解するための重要な機会であり、参加された高校生や保護者の方が安心して本学を進路先に選択していただけるよう、今後とも工夫をしていきたいと考えます。

SUMS 自然農園 活動報告

保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 合田 盛人

7月11日(火)医療福祉学専攻合田ゼミナールの学生7名が、実習施設でもある大学近隣の障害者福祉施設の利用者さん3名、職員さん2名を「SUMS 自然農園」にお招きして、「大根の種取り」作業を総勢13名で行いました。

作業に参加してもらった利用者さん職員さんからは「和やかな雰囲気の中で作業できてよかった」「大根の種まき作業があればぜひ参加したい」「(施設)外部の方と関わることが利用者さんにとってよい経験になるため、今後ぜひ共同作業をお願いしたい」という感想がありました。ゼミ生からは「障がい者の就労に関する課題には、障がい者に対して、支援者としていかに適材適所な仕事を探せるか、あるいは開発の視点から、雇用を創出するかと言う点もあることを確認できました」という感想がありました。

今秋には、今回採種した大根の種をまく予定です。種をまき、収穫し、そして種を取る、この循環で私たちは食を得て生きてきました。この当たり前の循環が、今は失われつつあります。「SUMS 自然農園」では、SDGsにも通じる取り組みとして、農薬や化学肥料を使わずに自然を尊重して野菜を栽培しており、種も自家採種して循環型社会についても考えていきます。



一見、雑草に見えますが、大根の花と鞘です

管理栄養学専攻の学生がレシピを考案

保健衛生学部 医療栄養学科 准教授 吉村 智春



“かいだ製麺所”と“ミエライス”が共同開発した米粉入りそうめん「ミエノナツ」を使用した夏のメニューを管理栄養学専攻の4年生3名が考案し、かいだ製麺所のホームページに紹介されています。

美味しいだけでなく栄養面も考えたレシピ開発の依頼があり、学生3名が試行錯誤してレシピ「ビビン麺風そうめん・カルボナーラ風そうめん・トマトそうめん」を完成させました。ミエライスの担当者が、本学の管理栄養士専攻の卒業生であり、試食会では学生が先輩に緊張しながらもレシピを紹介し、アドバイスをいただきました。

三重県産のお米と小麦粉を使用した米粉入りそうめん、地元の夏を元気にするメニューを学生が考案しました。ホームページで詳しく紹介しています。ぜひ、ご覧ください。



かいだ製麺所 HP

一日の始まりは、「おはようございます」「お願いします」から

保健衛生学部 医療栄養学科 教授 村林 新吾

この4月から毎週月曜から木曜まで朝少しの時間ですが、千代崎キャンパスで挨拶をしています。

学生には「おはようございます」、先生には「お願いします」、ただそれだけです。朝は一日の始まりで、とにかく皆さん忙しいですが、挨拶したときは気持ちが良いですよ。もちろん最初は学生も先生も誰からも「おはよう」の声は返ってきませんでしたが、それは前任教でも同じです。それが、本学ではすごい。前期試験初日に初めて声をかけた人、全員から「おはよう」が返ってきたのです。挨拶を始めてからたった3か月ですよ。嬉しくて、会う人会う人皆に、「うちの大学なかなかやるよ。皆、『おはよう』の声が返ってきたよ」と伝えました。「先生、高校と違ったの？」と言われ苦笑いしましたが、もう自分の大学と思っています。学生が良ければ先生が素晴らしい。小さなことが大きな夢になります。試験初日に挨拶ができたのも、皆気合が入っていたからかなと思う今日この頃です。

病院実習に参加して

医用工学部 医療健康データサイエンス学科 3年 長谷川 滉哉

私は、8月21日(月)～25日(金)の5日間、松阪中央総合病院にて診療情報管理士の病院実習に参加してきました。

松阪中央総合病院の診療情報管理士は医事課に所属しており、今回の実習では医事業務と診療情報管理室業務の2つの業務を見学・体験させていただきました。

医事課ではDPCや保険請求業務について説明を受けました。実際の入力業務も見学させていただきました。保険請求業務は直接病院の収入に繋がっているもので、迅速かつ正確にこなす必要があり、担当する職員の皆さんが業務にやりがいを感じている姿に憧れました。保険請求業務は私自身も大学の講義で資格取得に絡めながら学んでいたのですが、実際はもっと複雑であることを再認識させられました。

診療情報管理室では、退院サマリーの記載状況のチェック、病歴データ入力業務、院内がん登録について教えていただきました。患者データやカルテ等の管理、がん情報の報告等を行うことで、統計の元データや病院の指標を作成するという点で病院を支えているという業務であることを学びました。また実際に業務を体験させていただいたことは貴重な経験になりました。

ご指導いただいた方々はみな優しく接していただき、良い緊張を保ちながら5日間の実習をすることができました。今回の実習での見学や体験を通して学んだことを生かした仕事に就きたいと改めて感じました。



作業療法学専攻4年生の最後の臨床実習

保健衛生学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 4年 鈴木 茉央

4月10日(月)から計4か月間、作業療法学専攻4年生が臨床実習を行いました。今回が最後の臨床実習となり、学内教育で得た知識や技術を用いて、情報収集から治療の実施まで作業療法の過程を学習しました。様々な疾患の方に関わって先生方の治療を見学するなど、臨床でしか出来ない経験をさせていただきました。

急性期病院や回復期病院、介護老人保健施設、精神科病院などで作業療法士の取り組みを見学しました。身体障害領域では、身体機能や認知機能を評価し、その結果に基づいた治療プログラムを実施しました。知識や技術に未熟な部分があり悩むことも多かったですが、患者様が治療前より回復した様子を目にしたり、直接感謝の言葉をかけていただいたりしたことが自信に繋がりました。実習地の先生からは、評価時に負担を軽減する方法や、急性期のリスク管理の重要性を教えてくださいました。精神科病院では、集団プログラムに共に参加して観察し、コミュニケーションをとって評価しました。治療プログラムは患者様に実施してもらうだけでなく、療法士としての関わり方を工夫することも治療の1つであると教わりました。また、1施設で9週間、日々の関わりは状態が回復する方や反対に悪化する方など実際の現場の様子を知る機会となり、状況に合わせた介入が大切であることを学びました。



実習終了後の8月29日(火)に、学生同士で臨床実習での報告を行いました。今回の実習を通して、作業療法士としての関わり方や考え方だけでなく、多職種の中での作業療法士の役割を学ぶことが出来ました。来年は作業療法士になるため、国家試験合格を目標に勉学に励みたいと思います。

全国の臨床実習施設の指導者と臨床実習指導者会議を開催

保健衛生学部 放射線技術科学科 助教 荒井 信行

今年度も本学科4年生は、約2か月半の臨床実習を無事に終了し、臨床現場ならではの参加型実習や診療放射線技師の先生方からの貴重な教育を受けることができました。その意見交換会の場として8月30日(水)に臨床実習指導者会議が開催され、実習施設の指導者の先生方と本学教員を含めて様々な情報の共有がありました。以前は大半が県内施設からの参加で対面開催としていましたが、本学科は全国の養成校の中でもいち早くZoomを利用したオンライン会議を取り入れ、全国の実習施設を対象とした会議を行っています。大学への要望や質問、他施設へ聞きたいことを事前にアンケート回答していただき、当日会議内で大学側からの回答、各施設の教育内容や参加型実習の詳細など、有意義な情報交換をさせていただきました。また、先日学内で開催された4年生の臨床実習報告会(3年生同席の発表会)の優秀発表4名の学生(4年生:五味大雅、北原咲由華、溝口碧音、横道京香、発表順)による発表も行いました。

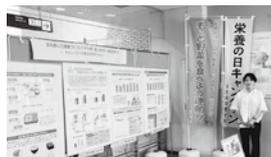


全国の実習施設からは「臨床実習の疑問が解決でき来年度の改善に活かすことができる」「他施設の教育内容が参考になる」「大学教員と様々な意見交換ができる貴重な場」と好評をいただいています。3月には臨床実習前説明会として、来年度実習予定施設と現3年生の打ち合わせを兼ねた説明会を開催予定です。

インターンシップの報告

長野県岡谷市役所 健康推進課・子ども課

保健衛生学部 医療栄養学科 管理栄養学専攻 3年 三井 響生



8月28日(月)～9月1日(金)の5日間、長野県の岡谷市役所でインターンシップを受け入れていただき、参加してきました。

岡谷市役所では、健康推進課、子ども課、教育総務課にそれぞれ管理栄養士が配属されており、私は健康推進課と子ども課にて栄養士業務を見学・体験させていただきました。

健康推進課では、育児相談や9・10か月検診での栄養相談、地域に出向き高齢者を対象にした栄養相談、積極的支援での保健指導、子ども課では、子育て支援センターでの業務、保育園での保護者面談、給食の様子などを見学させていただきました。

健康推進課にて、育児相談での栄養相談を見学した際の、ソーシャルスキルトレーニングの提案により食環境の改善を図る指導が印象的でした。行政栄養士としての業務に携わるにあたり、栄養や料理、食事に関する知識に加え、より良いコミュニケーションの取り方を指導・提案するための知識が必要だと分かったのは、実際の現場に出向いたことで得られた気づきであったと思います。

今回、貴重な機会を頂戴し、実際に見て感じたことをこれからの学習に活かして学びを深め、見聞を広げたいです。

最後に、お忙しい中でインターンシップを受け入れてくださった岡谷市役所の皆様、行政栄養士の先生方、インターンシップ参加のためにご尽力くださった管理栄養学専攻の先生方に厚く御礼申し上げます。

愛知少年院 法務省矯正職員

保健衛生学部 医療福祉学科 臨床心理学専攻 3年 田 和宏

私は、9月27日(水)～29日(金)までの3日間、愛知県豊田市にある愛知少年院で行われた法務省人間科学系インターンシップに参加させて頂きました。国家公務員法第100条の観点から、実習中に知り得た情報の公開が禁止されているため、自分自身が3日間を通して感じたこと・考えたことのみを報告します。

特定指導活動や少年と教官の話し合いなどの見学では、少年たちが犯した罪から目を背けずに、更生後の未来に向けた最適な答えを模索していました。自分の将来に対して本気で行動を起こしてくれる人が周りに居るか居ないかが、非行に走るかどうか大きく影響していると考えました。私はこれらを通して、自分が歩んできた人生とは比較にならないほど劣悪な環境が世の中に存在していることを知り驚愕したと同時に、自分の置かれている環境がいかに恵まれているのかを痛感しました。幼少期に自分に対して本気で怒ってくれた人たちのお陰で今の自分があることを実感したからこそ、その方たちへの感謝の思いでいっぱいです。

少年たちの姿勢を間近で拝見し、過去と向き合い日々成長することの大切さを学びました。3日間を通して学んだことを、将来の職務に従事する中で活かしていきたいと思えます。

最後になりますが、名古屋矯正管区及び愛知少年院の方々、そしてインターンシップに参加するにあたり相談に乗ってくださった本学の先生方に厚く御礼申し上げます。



ボランティアセンター活動報告



桜の森白子ホーム「折り紙・ちぎり絵ボランティア」

8月3日(木)に、大学関連施設である桜の森白子ホームで「折り紙・ちぎり絵ボランティア」を行い、約30名の入居者の方と16名の学生が4つのブースに分かれて、それぞれ思い思いの折り紙やちぎり絵の作品を作成しました。

皆で折った「やっこさん」の折り紙でトントン相撲をしたり、作った紙風船を飛ばしたりと、楽しい時間を過ごすことができました。また折り紙やちぎり絵を作成する中で、利用者さんの昔の思い出や、鈴鹿市の昔の様子などをお話いただき、学生も生き生きとした表情で会話を楽しませていただきました。



桜の森白子ホーム「手浴とハンドマッサージボランティア」



9月27日(水)に、桜の森白子ホームで7人のボランティア学生が21人の利用者の方に対して「手浴とハンドマッサージのボランティア」を行いました。

ボランティアでは、利用者の方にお湯を入れた桶に手を浸けてもらい、温まった利用者の方の手を学生が丁寧にハンドマッサージを行いました。最初は緊張していた学生たちですが、利用者の方に湯加減やハンドマッサージの力加減を確認する中で「気持ちいいよ」「とても嬉しいわ」といったお言葉をいただくと、緊張がほぐれマッサージを終えるころには笑顔で利用者の方と沢山のお話ができるようになりました。

参加した学生からは「高齢者の方と関わる機会が少ないので、とても良い経験ができました」といった感想が聞かれました。

今後も桜の森白子ホームでのボランティア活動を継続的に実施していきたいと思います。

学友会

『テーブルマナー講習会』を開催！

学友会 会長（放射線技術科学科 3年） 鈴木 陽茉理

9月24日(日)学友会主催の「テーブルマナー講習会」を都ホテル四日市にて開催し、44名の学生が参加しました。

講習会は最上階のラ・メールを会場に、萱橋講師から「洋食料理におけるテーブルマナー」を教わりました。正しい着席姿勢、食器の使う順番や使い方・魚料理や肉料理の食べ方の他、一緒に食事をする方に対する心遣いや立ち振る舞いなど多くのことを学びました。

参加者からは、「とても楽しく食事ができ、ためになって良かった」「今まで知らなかったマナーを学ぶ良い機会になった」「料理が美味しく、食事中も会話ができ楽しかった」などの声があり、楽しみながら正しいマナーを身に付けることができました。

テーブルマナー講習会は来年度も開催する予定ですので、興味のある方はぜひご参加ください。

<学生課>



教育支援の会「第2回役員会」および「保護者懇談会」を開催

教育支援の会では、保護者の方に学生の様子や大学の状況をご理解いただくことを目的として、毎年「保護者懇談会」を開催しています。

今年度は10月1日(日)に保護者懇談会を実施しました。今年度は4年ぶりとなる対面での面談と、昨年同様Zoomでの面談の2つのパターンで実施しました。懇談会は550名を超える保護者の方にご参加いただき、個別で学生の履修状況や進路・就職に関するご質問や、学生の日頃の様子などについて教員がお答えしました。

今年度の保護者懇談会についても、ご出席いただいた皆様のご協力によりトラブルなく終わることができました。

また同日に「教育支援の会 第2回役員会」を実施しました。役員会では、来年度予算案などについて話し合ったほか、就職状況の報告などがなされました。

今後も学生の諸活動の支援等を円滑に進められるよう努めてまいります。 <教育支援の会事務局・学生課>

学生相談室通信



学生相談室 カウンセラー 山口 彩華

皆さん、初めまして。今年度から学生相談室で勤務しております、カウンセラーの山口と申します。まだまだ不慣れなことが多いですが、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、皆さんは後期授業が始まってしばらく経ちましたが、環境の変化には慣れてきたところでしょうか。今年の夏も非常に暑い日が続きましたが、秋に突入ということで、気温差から体調など崩していないでしょうか。

秋といえば「食欲の秋」「読書の秋」…とさまざまな言葉がありますよね。どれも充実した季節を思わせる言葉ですが、実は秋は体調を崩しやすい季節でもあります。気温差が激しく風邪を引きやすくなったり、食べ物が美味しく食べ過ぎてしまったり…。体調が変化すると、それと同時にここも疲れてしまい、なんとなく気分が落ち込む…ということにつながっていきます。何かと変化が多い季節になりますが、そのような時にこそ、基本の生活習慣を整えることが大切です。睡眠時間をしっかりと確保し、出来るだけお風呂に浸かって温度差で疲れた身体を癒す。もちろん食べ過ぎにも注意です。基本的な生活を整えるところから、身体もここも整えていきましょう。

それでも気分が晴れない、不安になる、何か困ったことがあった…そのような時にはぜひ、学生相談室をご利用ください。「こんなこと相談していいのかな」「自分の悩みなんて」そう思われる方も、まずは気軽に学生相談室にお越しくださいね。



「地球温暖化、変だどー」

今年の夏はとにかく暑かった。日中、車の温度計が35℃を超えることが何度もあったし、寝室のクーラーは朝までつけっぱなしだった。おじさんのウン十年の人生で最高に暑い夏だった。気象庁からも、観測史上最も暑い夏で「異常気象だった」と発表があった。「暑さ寒さも彼岸まで」と言うけど、今年はお彼岸になっても暑さが収まらなかったよね。10月になって、さすがに熱帯夜はなくなったけど、今度は急に涼しくなっちゃった。どうなってんだ。何かがおかしい。そう言えば、今年（2023年）の桜の開花前線は、南からではなく、東京から始まった。これも、奇妙と言えば奇妙だった。

そうそう、おじさんは怒ってるんだ。こんなに暑い夏なのに、マスコミは温暖化、温暖化と騒がしい。何が「温暖化」なんだ。温暖な訳ないだろう。「温暖化」という言葉を聞くたびに腹が立った。国連の事務総長は“boiling”（沸騰化）って言ってたよね。冬は確かに温暖化でも許せるけど、夏の猛暑日に「温暖化の影響で」などと言われると、なんか違うような気がして腹立たしい思いがするんだ。そもそも日本語の「温暖」には「穏やか」とか「快適」という意味合いがあるんだ。「地球温暖化」っていうのは、英語の“Global warming”を訳したんだと思うけど、英語の“warm”は日本語の「温暖」とは少しニュアンスが違うみたいだ。おじさん個人的には、「地球高温化」くらいが良いと思うけど・・・

それより問題なのは、「地球温暖化」なんていう用

語を後生大事に使っているのは日本だけかもしれないことなんだ。日本では、2008年に「地球温暖化対策の推進に関する法律」が公布された関係で、「地球温暖化」という用語がよく使われ、小学校の教科書にも載ってるらしい。だけど、今や“Climate change”「気候変動」が国際標準語になっちゃってるんだ。気候が異常で「変だぞう」、「変だどー」「変動」ってな具合で、「気候変動」になっちゃったらしい。ウソ、ウソ、ウソだよ。そんなことある訳ないでしょ。

地球の危機的变化は、気温の上昇だけじゃないからなんだ。干ばつ、水不足、洪水、極地での氷の融解、海面上昇、壊滅的な暴風雨、動植物の生息地の変化などなどたくさんある。国連が定めたSDGs（エス・ディー・ジーズ）17の目標の13番目も、「気候変動に関する目標」となっている。残念ながら、「地球温暖化」じゃないんだよね。

「地球温暖化」は、意味の上でもおかしいし、第一国際標準語になっていない。世界共通の「気候変動」という用語に改めなきゃダメだ。「地球温暖化」という言葉だけが独り歩きして、日本人だけが地球の危機は「温暖化」だけだと勘違いしそう。その内、「温暖」の意味も変わっちゃって、「今日はひどく温暖だったね。最悪だよ。40℃もあったもんな」なんて会話が飛び交うようになるんじゃないの。それこそ「変だどー」

そろそろ“Climate change”「気候変動」にチェンジしなくっちゃね。

慢性疼痛で学ぶチーム医療 体験型合同ワークショップを開催

慢性疼痛で学ぶチーム医療（実践）担当責任者・臨床検査学科 教授 山口 太美雄

慢性疼痛で学ぶチーム医療（実践）ワークショップが8月21日（月）～23日（水）に白子キャンパス1号館7階で開催され、本学学生36名と三重大学医学部生13名の計49名が参加しました。

第1日目は、三重大学の堀浩樹医学部長の開講挨拶に続き、痛みの評価の講義の後、各ブースに分かれ、本学教員による鍼灸治療、アロマセラピー、筋口コモ、三重大学教員による神経ブロック、筋弛緩法を体験しました。

第2日目は、多職種連携を模した各チームによるグループワークの後、福祉の現状や、痛み緩和の助けとなる薬膳の講義が行われ、午後は理学療法の説明とストレッチ実践の後、先輩達による「学生サポーターの会」と交流しました。

最終日は、慢性疼痛に悩む患者さんの病状や心理を把握するため、教員チームが患者と家族に扮し、ロールプレイングが行われました。学生チームとの真剣なやりとりから、問題解決のための有効なアイデアが次々と出てきました。各グループでは担当教員がサブファシリテーターを務め、それぞれの医療職の業務を紹介しつつ、治療に関する学生からの質問に応えました。

3日間を終え、医療従事者を志す学生から、臨床現場での使命を強く実感したとの声が寄せられました。閉講挨拶では、豊田長康学長よりワークショップの重要性と学生への期待が表明され、教職員一同も身が引き締まる思いがしました。来年度は今回の学生の意見を元に、さらに内容を進化させます。後輩の皆さんの積極的な参加をお待ちしています！



行事予定

2023年11月～2024年1月

11月1日（水）～2日（木） 秋期定期試験と解説
3日（金・祝） 金曜授業日
4日（土） 補講日
6日（月） 秋期定期試験と解説
10日（金） 大学祭準備
11日（土）～12日（日） 大学祭
13日（月） 大学祭片付け
16日（木） 学校推薦型選抜（推薦）
千代崎：休講 白子：補講日
17日（金） 学校推薦型選抜（推薦）
総合型選抜3期
千代崎：休講（立入禁止） 白子：休講
23日（木・祝） 木曜授業日
25日（土） 秋期追・再試験
12月9日（土） 補講日
16日（土） 学校推薦型選抜（指定校2期）
総合型選抜4期
編入学試験第2回

12月19日（火）～20日（水） 補講日
26日（火） 冬季休業（～1月8日）
27日（水）～1月5日（金） 冬季一斉休暇
1月9日（火）～11日（木） 補講日
12日（金） 大学入学共通テスト準備
千代崎：休講（立入禁止） 白子：休講
13日（土）～14日（日） 大学入学共通テスト
千代崎のみ立入禁止
15日（月）～19日（金）・22日（月）～24日（水）
後期定期試験
29日（月） 一般選抜A日程準備
千代崎：休講（立入禁止） 白子：休講
30日（火） 一般選抜A日程
学校推薦型選抜（指定校3期）
千代崎：休講（立入禁止） 白子：休講
31日（水） 後期・冬期定期試験と解説

※ 上記予定は変更になる場合があります。A-Portalおよびホームページで最新情報を確認してください。